

千葉駅帰宅困難者対策実動訓練 概要

1 趣旨・概要

首都直下地震等が発生した場合、千葉駅周辺では多くの帰宅困難者の発生が予想されることから、行政機関、鉄道事業者及び一時滞在施設等の対応能力向上と連携強化を図るため、JR千葉駅、京成千葉駅、モノレール千葉駅の3駅で、帰宅困難者への情報伝達や一時滞在施設への避難誘導等の訓練を実施した。

2 日時 : 平成29年11月9日(木) 9:30~11:50

3 場所 : JR千葉駅周辺、千葉市生涯学習センター(一時滞在施設)

4 主催 : 千葉県、千葉市、千葉駅周辺帰宅困難者等対策協議会

5 参加人数 : 約200人
(うち、帰宅困難者役 約120人(身体障害者6人、外国人4人))

6 訓練想定

千葉市直下を震源とする大規模な地震が発生。地震の規模は、マグニチュード7.3と推定され、千葉市内では震度6強の揺れに襲われた。

7 訓練の特徴

負傷者及び身体障害者への対応を行うほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えて、外国人への対応訓練を実施した。

なお、市内での帰宅困難者対策実動訓練は、平成24年度にJR海浜幕張駅、平成25年度に九都県市合同防災訓練の一環としてJR千葉駅を対象とした訓練以来、3回目となる。

8 訓練の概要

駅構内での利用者保護訓練の後、一時滞在施設への誘導、同施設での受け入れ訓練などを行った。終了後、参加の関係機関による意見交換会において訓練の振り返りも行った。

(1) 通信訓練

区役所と対策協議会各機関との間で情報収集・伝達訓練を実施した。

(被害情報、帰宅困難者発生情報、一時滞在施設の使用可否 等)

(2) 駅構内での利用者保護訓練

各鉄道事業者が、利用者を安全な場所へ誘導し、負傷者の応急処置を行った。

(3) 情報提供訓練

帰宅困難者に対し、一時滞在施設の開設状況等の情報提供を行った。

(4) 誘導訓練

各鉄道事業者が、帰宅困難者を一時滞在施設まで誘導した。

(5) 一時滞在施設受入訓練

施設の開設準備、帰宅困難者の受入及び物資の配布等を行った。